

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な教育的ニーズに対応し、生徒一人ひとりに応じた教育活動を通して、「自由」と「責任」の真の意味を学びつつ「社会的自立心」を育む。生徒の心身の健やかな成長を支えるために学校と家庭、地域がよりよい関係を築き、魅力ある学校、地域から愛される学校をめざす。

1 規律・規範意識を持ち、豊かな心を育成する。

2 自己有用感を高めるとともに、個の違いを認め、お互いを尊重しあう精神を育成する。

3 生徒一人ひとりに応じた学びを通して、確かな知識や技能を育成する。

4 地域への貢献や連携を図り、地域社会に愛される学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化

(1)「わかる授業」「魅力ある授業」をめざした授業づくりを進める。

ア 各教科において生徒の学習状況を把握し、基礎的・基本的な学習の学び直しができる授業を展開する。

イ 1人1台端末導入により、ICT 機器や視聴覚教材を活用した生徒にとってわかりやすい授業づくりを実践する。

※目標：授業アンケートの項目「この授業の難易度は自分にとって適切である」「授業の内容に興味・関心をもつことができた」の肯定的回答率を令和 10 年度には直近 3 年間の平均を各 90%以上にする。(新規：R456 平均 90.3%・87.3%、R567 平均 94.0%・90.4%)

(2)キャリア教育・進路指導の充実を図り、学校生活や学びに対する目的意識の醸成を図る。

ア 種々の資格取得に挑戦することを通じて、自ら学ぼうとする意欲や態度を育成する。

イ ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を多く取り入れて、基礎学力の定着を図るとともに活用する力を育成する。

ウ 専門分野における技能競技会やコンクールに参加することで、実践的な技術を身につけて実社会で生き抜く力を養う。

エ 日本語指導を必要とする生徒を支援、指導する体制を構築する。

※目標：資格試験受験者数の合格・取得率を令和 10 年度には 60%以上にする。(R5 57 名 47.4%、R6 15 名 57.7%、R7 17 名 56.7%)

※目標：学校紹介就職希望者の内定率 100%を維持する。(R5 100%、R6 100%、R7 100%)

※目標：授業アンケートの項目「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」について、肯定的回答率 90%以上を維持する。(R5 93.0%、R6 93.2%、R7 92.3%)

※目標：技能競技会やコンクール等の大会に令和 10 年度には 2 回以上出場する。(R5 1 回、R6 2 回、R7 1 回)

(3)多様な生徒の相談に対応できる体制づくりを進める。

ア 現状の分析と課題把握、今後の方向性と課題解決対策の取組みを推進する。

イ 生徒の状況や保護者からの情報を収集し、アセスメントに基づいた支援対策についてケース会議で検討する。

ウ 学びへのアクセスの支援として、SC 等と連携・協働し支援の成果検証と改善点の検討を行い、生徒の学習環境を整える。

※学校教育自己診断「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。」の肯定的回答の割合 90%以上を維持する。(R5 82.1%、R6 89.7%、R7 96.3%)

(4)保護者や地域との連携を図るために、学校における情報発信力を高める。

ア 学校行事や生徒会行事などの学校生活の様子を学校ホームページに定期的に掲載することで、地域や保護者が学校への関心を高めるよう取り組む。

イ 各種便りの定期的な発行や授業参観日を設定し、保護者に子どもの学校生活の様子を知る機会を増やす。

※目標：学校 HP や公式 SNS の閲覧数を令和 10 年度まで毎年増加させる(新規 R7 学校 HP：6160 回、公式 SNS：35906 回)

2 豊かな心と健やかな体の育成

(1)自尊感情の向上をめざし、自己有用感を高める。

ア 挨拶を基本とした礼儀・マナーの指導を通して、規律・規範意識を持たせて豊かな心を育む。

イ 集団生活の中で規範意識を育成し、生徒同士が違いを認め合って生活できるよう指導する。

ウ 人権感覚を養い、生徒会活動などを通して道徳心・社会性の育成に取り組む。

※目標：生徒会行事への出席率を高卒編入生以外で 60%以上を維持するとともに生徒の肯定的回答率 90%以上を維持する。(R5 58.1%・98.3%、R6 68.1%・99.3%、R7 57.8%・99.3%)

※目標：学校教育自己診断「お互いの違いを認め合い学校生活をおくっている」の肯定的回答の割合を令和 10 年度には 95%以上にする。

(2)生徒たちが健やかに成長し、生涯にわたり健康な生活を営むことができるよう育成する。

ア 健康診断の結果を踏まえ、生涯にわたる健康管理のための正しい基本的な生活習慣を確立できるよう、自己管理意識を高める。

イ いじめやハラスメントなどの問題行動等について、継続的に取り組み、安全な学習環境の整備を進める。

ウ 教職員および生徒の環境保全に対する意識や防災及び校内美化への意識の向上を図る。

※目標：学校教育自己診断「安全で安心な学校生活を送れている」の肯定的回答率 95%以上を維持する。(R5 92.3%、R6 96.6%、R7 100%)

(3)生徒の居場所づくりに向けた支援体制の充実を図る。

ア 生徒の成長を取り巻く環境や生徒自身の悩みが複雑化・多様化している中、教職員、SC 及び SSW 等の関係者が連携した教育相談体制をつくる。

イ 生徒の不安や悩みに対して SC と連携して生徒の「こころの健康」や「こころのケア」に取り組む。

ウ 全教職員が SC 及び SSW の役割や学校としての活用方針等を共通理解ができるよう、SC や SSW 等による教員研修会を実施する。

エ 支援を要する生徒の教育的ニーズの把握と情報共有を図る。また、特別支援教育に対する教職員の理解を深める。

※目標：SC や SSW による教員対象研修会を年 2 回以上実施し、参加した教員からのアンケート調査を実施し、肯定的回答率 90%以上を維持する。(R5 2 回・96%、R6 2 回・95%、R7 2 回・90%)

※目標：学校教育自己診断「学校での活動は楽しい。」の肯定的回答率を令和 10 年度には 95%以上にする。(新規：R7 88.5%)

3 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり

ア 教員間の授業見学期間を設定することで、教員の指導力の向上とともに、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点に立った授業づくりを推進する。

イ 各教科において、授業アンケートを取り入れた PDCA サイクルによる授業改善を推進する。

ウ 教員の指導力向上に向けた各種機器の活用を図るとともに、情報リテラシー向上など ICT を活用した取組を推進する。

※目標：授業アンケートの「先生は、よりよい授業をしようとする意欲や熱意をもっている」の肯定的回答率 90%以上を維持する。(R5 95.6%、R6 93.2%、R7 96.6%)

4 働き方改革の推進

ア 教職員の健康増進・維持のために、時間外勤務の縮減を図るため教職員への啓発と意識改革を図り、ストレスの軽減をめざす。

イ グループウェア等を活用して校務運営の効率化を図り、週に一度の全校一斉定時退庁日を実施する。

※目標：年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする。(新規 R 7 0 人)
※目標：ストレスチェック職場分析結果において、総合健康リスクの項目で 90 以下をめざす。(R 5 90、 R 6 84、R 7 99)
※目標：会議資料のデジタル保存化や全体におけるオンライン会議の実施割合 70%以上を維持する。(R 5 50%、R 6 60%、R 7 75.9%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
I 確かな学力の定着と学びの深化	(1)「わかる授業」「魅力ある授業」をめざした授業づくりを進める。			
	A 基礎的・基本的な学習内容の学び直しができる授業の展開	A ・ 各教科において生徒の学習状況を把握し、基礎的・基本的な学習の学び直しができる授業を展開する。	A ・ 授業アンケート「この授業の進度や難易度は自分にとって適切である」の肯定的回答率 90%以上 [94.4%]	
	I ICT 機器や視聴覚教材を活用した生徒にとってわかりやすい授業づくり	I ・ 1人1台端末導入により、ICT 機器や視聴覚教材を活用した「わかりやすい授業づくり」を実践する。	I ・ 学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している。」の肯定的回答率 90%以上 [96.2%・96.3%]	
	(2)キャリア教育・進路指導の充実を図り、学校生活や学びに対する目的意識の醸成を図る。			
	A 種々の資格取得に挑戦することを通じて、自ら学ぼうとする意欲や態度を育成する。	A ・ 卒業後の進路を意識しながら、資格取得に積極的に挑戦することを通じて、自ら学ぼうとする意欲や態度を育成する。	A ・ 資格試験合格・取得率 50%以上 [56.7%] ・ 自己進路実現に向けた補習や資格取得のための補習に主体的に参加した生徒へのアンケート「補習に参加することで学ぶ意識や自己肯定感が向上した」に対する肯定的回答率 90%以上 [100%]	
	I 基礎学力の定着・知識および技能の習得	I ・ ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を多く取り入れて、基礎学力の定着を図るとともに活用する力を育成する。	I ・ 授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の肯定的回答率 90%以上 [92.3%]	
	U 技能競技会やコンクール等の参加	U ・ 技能競技会やコンクール等に参加することで、実践的な技術を身につけて実社会で生き抜く力を養うとともに自己肯定感を育む。	U ・ 技能競技会やコンクール等の大会に年1回以上出場[年1回]	

	エ 日本語指導を必要とする生徒を支援、指導 (3)多様な生徒の相談に対応できる体制づくりを進める。 ア 現状の分析と課題把握、今後の方向性と課題解決対策を推進する。 イ 生徒の状況や保護者から情報を収集、検討 ウ 学びへのアクセスの支援 (4)保護者や地域との連携を図るために、学校における情報発信力を高める。 ア 学校ホームページや SNS の活用	エ ・ 各担当、各種委員会等が連携し、日本語指導を必要とする生徒を支援、指導する研修を実施する。 ア ・ コーディネーター等を中心とした教育相談委員会で現状の分析と課題把握、今後の方向性と課題解決対策の取組みを推進する。 イ ・ 生徒の状況や保護者のからの情報を収集し、アセスメントに基づいた支援対策を、ケース会議を行い検討する。 ウ ・ SC と連携・協働し支援の成果検証と改善点の検討を行い、生徒の学習環境を構成する。 ア ・ 学校行事や生徒会行事などの学校生活の様子を学校ホームページや SNS に定期的に掲載することで、地域や保護者が学校への関心を高めるよう取り組む。	エ ・ 日本語指導の各種研修会を、関連部署と連携して行い、教員に対するアンケートで研修の満足度を 90%以上 [93.8%] ア ・ 教育相談委員会を年6回実施[年 10 回] イ ・ 学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」「学校は保護者の相談に適切に応じくれる」の肯定的回答率 90%以上 [96.3%、100%] ウ ・ 学校教育自己診断「授業がわかりやすく、楽しい」の肯定的回答率 85%以上 [88.5%] ア ・ 学校 HP や公式 SNS の閲覧数を昨年度より増加させる (新規 R7 学校 HP：6160 回、公式 SNS：35906 回)	
2 豊かな心と健やかな体の育成	(1)自尊感情の向上をめざし、自己有用感を高める ア 規律・規範意識を持たせて豊かな心を育む イ 生徒同士が違いを認め合って生活できる指導 ウ 人権感覚を養い、生徒会活動などを通して道徳心・社会性の育成	ア ・ 教職員による登校時の校門指導を通じて、挨拶を基本とした礼儀、マナーが身につくように指導する。 イ ・ 集団生活の中で規範意識を育成し、生徒同士が違いを認め合って生活できるよう指導する。教職員が積極的に生徒に働きかけることで教師への信頼感を育むとともに、自己存在感や充実感を育む。 ウ ・ 人権感覚を養い、生徒会活動などを通して道徳心や社会性の育成に取り組む。 ・ SNS 等に関わる生活安全講座を外部機関や企業と連携して実施し、指導する。	ア ・ 学校教育自己診断「学校の廊下・教室等で先生や他の生徒にあいさつしている」の肯定的回答を 90%以上にする [新規 88.9%] イ ・ 学校教育自己診断「お互いの違いを認め合い学校生活をおくっている」の肯定的回答を 90%以上にする [新規 100%] ウ ・ 人権に対する意識を高める講演会、研修会を年間各 1 回実施 [年間各 1 回] ・ 情報モラルに関わる安全教室および交通安全講習会を年間各 1 回実施 [年間各 1 回]	

	(2)生徒たちが健やかに成長し、生涯にわたり健康な生活を営むことができるよう育成 ア 基本的な生活習慣を確立できるよう、自己管理意識の向上 イ いじめやハラスメントなどの問題行動等について、継続的な取組 ウ 環境保全に対する意識や防災及び校内美化への意識の向上 (3)生徒の居場所づくりに向けた支援体制の充実 ア 教職員、SC 及び SSW 等の関係者が連携した教育相談体制づくり イ 生徒の「こころの健康」や「こころのケア」 ウ SC、SSW の役割、学校としての活用方針等の共通理解 エ 支援を要する生徒に関する共通理解	ア ・ 健康診断の結果を踏まえ、生涯にわたる健康管理のための正しい基本的な生活習慣を確立できるよう、自己管理意識を高めるとともに、必要に応じて生徒に健康増進について呼びかける。 イ ・ いじめやハラスメントなどの問題行動等について、継続的に取り組み、安全な学習環境の整備を進める。 ・ あらゆる教育活動の機会を通じ、人権尊重の意識を高め、互いの違いを認め合える人間形成に取り組む。 ウ ・ 特別美化清掃の徹底を図るとともに、日常の校内美化に対する意識を促す。 ・ 防災への備え、注意喚起を図る。 ア ・ 生徒の成長を取り巻く環境や生徒自身の悩みが複雑化・多様化している中、養護教諭を中心に、教職員、SC 及び SSW 等の関係者が連携した教育相談体制づくりを図る。 イ ・ 生徒の不安や悩みに対して SC と連携して生徒の「こころの健康」や「こころのケア」について取り組むために保健だよりや SC 等による講演を実施する。 ウ ・ 全職員が SC、SSW の役割や、学校としての活用方針等を共通理解ができるように SC による教員研修会を実施する。 エ ・ 支援を要する生徒の教育的ニーズの把握と情報共有を図る。また、特別支援教育に対する教職員の理解を深める。	ア ・ 受診勧告が必要な生徒へ受診報告書を基に個別事後指導を年1回以上注意喚起[2回] イ ・ 学校教育自己診断を実施し、「安全で安心な学校生活を送れている」の肯定的回答率 90%以上[100%] ウ ・ 清掃活動を年 10 回実施し、美化活動を月1回以上実施[年 22 回] ア ・ 教職員、SC 及び SSW 等の関係者会議を年4回以上実施[20 回] イ ・ 利用した生徒に対してアンケート調査を実施し、肯定的回答率 85%以上[85.7%] ウ ・ SC・SSW 等による教員対象研修会を年2回以上実施[年2回] エ ・ 教育相談委員会を年6回以上開催し、生徒の情報交換を密にする[10 回] ・ 生徒情報連絡会を年2回開催[2回]	
3 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり	ア 教員の指導力の向上とともに、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点に立った授業 イ ICT の導入等を踏まえた授業改善 ウ 情報リテラシー向上に向けた教職員研修を実施	ア ・ 教員間の授業見学期間を設定することで、意見交換やアドバイスなどによって各教員の指導力の向上とともに、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点に立った授業づくりを推進するために、研究授業や授業見学を実施する。 イ ・ 各教科において、授業アンケートを取り入れた PDCA サイクルによる ICT 等の導入等を踏まえた授業改善を推進する。 ウ ・ 校内の各種 ICT 機器の維持活用を図るとともに、情報リテラシー向上に向けた教職員研修を実施する。	ア ・ 他教科の授業や実習も含めて、各教員が年2回以上授業見学を行い、その割合を 65%以上[2回 66.7%] イ ・ 授業アンケート:「先生は、よりよい授業をしようとする意欲や熱意を持っている」の肯定的回答率 90%以上[96.6%] ウ ・ ICT 機器を活用した研究授業を年1回以上行う。[2回] ・ 情報リテラシー向上に向けた教職員研修を年1回以上実施[1回]	

4 働き方改革の推進	ア 教職員の健康増進維持、勤務時間の適正化	ア ・ 教職員の健康増進・維持のために、時間外勤務の縮減及び意識改革を図り、併せてストレスの軽減を図る。	ア ・ 年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする [新規 0人] ・ ストレスチェック職場分析結果において、総合健康リスクの項目で 90 以下を維持する。[99]	
	イ 校務運営の効率化	イ ・ グループウェア等活用した校務運営の効率化を図り、週に一度の全校一斉定時退庁日を実施する。	イ ・ 会議資料のデジタル保存化や会議、連絡会等に占めるオンライン会議の実施割合 75%以上 [75.9%]	